慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	栗原百寿著 農業問題入門
Sub Title	
Author	平野, 絢子
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1955
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.48, No.9 (1955. 9) ,p.732(82)- 734(84)
JaLC DOI	10.14991/001.19550901-0082
Abstract	
Notes	書評及び紹介
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19550901-0082

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

らわれることなく本書を推して、複雜なる經營の諸問題を解決するための基礎理論の獲得に利用されることを希望したい。

（三〇、七、一二）（關口　操）

栗原百壽著

『農業問題入門』

本書の著者栗原百壽氏は過勞が原因で去る五月二十四日突然死去された。氏自身の言われる〃科學的な日本農業問題論〃の體系化への途上その精力的な仕事に終止符が打たれたことは只殘念という外はない。書評に先立つてここに深く哀悼の意を表する次第である。

× × ×

本書は「日本農業の基礎構造」（一九四三年）で厖大な官廳統計によつて日本農業における中農標準化傾向を打ち出され、更に「日本農業の發展構造」（一九四九年）、「農業危機の成立と發展」（一九五〇年）、「現代日本農業論」（一九五一年）、「わが國小作料の地代論的研究」（一九五二年、論文、東北大學經濟學會研究年報「經濟學」第三號）、「分割地農民の理論的諸問題」（一九五三年）など、數篇の勞作を通じて發展してきた氏の理論の總まとめであり、第一段階において企圖された體系化である。「農業經濟學と農業政策論と農村社會學との統一としての農業にかんする唯一の本格的な綜合科學（序文）」をめざし、「世界史的な農業問題の發展段階的諸法則を

系統的に（本文十二頁）」解明することを目的とされた點において、從來の「地代理論を根幹とする經濟理論の一特殊構成部分としての農業經濟論」に對して著しい特色をなしているが、それも又氏の理論體系の立て方を示すものに外ならない。宇野弘藏教授の經濟學の三段階論――原理論（一般理論）、發展段階論（政策論）、現段階論（個別的分析）――の規定の上に立つて「農業經濟學ないし農業問題の體系は、農業にかんする發展段階的な特殊的諸法則を究明する政策論的な法則的科學である（十二頁）」とされる「農業問題の對象と方法（十六頁）」には問題がある。しかし最大限利潤の法則の確立（スターリン「ソ同盟における社會主義の經濟的諸問題」）以後の世界資本主義の廣い視野に立つて、廣義の經濟學との關連において（農業問題の世界史的な發展段階的諸法則の系統的解明）「資本主義の農業問題」を古典的著作の科學的規定を基礎に把握をこころみられたことは、まことに野心的でかつ時宜にかなつたことと言わねばならないであろう。「先資本主義的農業の諸問題」（第二章）で「資本主義に先行する諸形態」によりアジア的、古典古代的、ゲルマン的という基本的な原始共同體の解體期における小農經營と共同體の結合形態の類型化と封建制への移行の仕方を扱われ（第二章）、「商人資本と農業問題」（第三章）では從來一義的にしかとらえられにくい高利貸資本を商人資本から區別し、封建的生産樣式に對して有する役割（たとえば高利貸資本は純粹封建的領主的土地所有を堀りくづすかぎり變革的であるが、小經營的生産樣式そのものを變革することができないで結局みずから半封建的な寄生的土地所有に轉化しなければならない限り新しい創造のための積極的破壞作用ではない。しかしそれが一定の諸條件――資本主義的生産樣式の諸條件――と結びつくときには新しい生産樣式の形成手段の一つとして現われる（一〇二―四頁）事を明らかにされ、更に「産業資本と農業問題」（第四章）、「獨占資本と農業問題」（第五章）、「日本資本主義と農業問題」（第六章）という構成がとられているなど、本書の草稿が「ソ同盟經濟學教科書」出版以前にこのような體系を有していたことだけを見ても著者の卓越した問題視角と遂には身をもむしばむに至つた程の精力的な努力のあとをうかがうことが出來よう。教科書との對比によつても、のこされたわれわれは多くの示さをうけることができる。

研究對象の厖大さのみならず、問題提起からみても餘りにも多くの問題點があるので、ここではとくに氏の理論構成のたて軸となつている小農または小經營的生産樣式との關連において氏の分割地所有の理解の仕方、およびその上にたつ日本の寄生地主制の問題をとりあげてみたいと思う。

氏は資本主義の農業問題として資本主義下の農業進化の諸條件と諸形態とを對象とする場合に全體系を一貫する基礎範疇が存在することを指摘される。小農（小經營的生産樣式）、地主（土地所有）、ブルジョアジー（資本）、プロレタリアート（賃勞働）のこの四つの基礎範疇のそれぞれの實存形態ならびに相互の結合樣式が資本主義の發展段階に應じて轉變して行き、これら基礎範疇そのものが發展して行き、從つて農業問題が展開されてゆく（二一頁）ことになる。そして農業問題の全體系を一貫する根本問題は小經營的生産樣式の問題であるという。直接生産者が自ら勞働力の再生産を行う經營樣式である小經營（直接生産者による生産手段の所有又は占有にもとづく經營樣式）を生産用具が（直接生産者にか否かは別として）私有されている原始共同體解體以後の各生産樣式を歴史的（現象的）に貫ぬく經營樣式として生活資料生産部門たる農業の理論的分析の構成要素として前面に押し出された點に一つの獨自の問題提起がある。更に、これを分割地所有と結びつけてとりあげる時に問題がある。

氏は分割地所有（パルツェレンアイゲンテウム）を「封建的隷從關係から解放された小經營的生産樣式に對應する土地所有形態」であるが「小經營的土地所有として存續しているかぎり農村共同體的諸關係の殘存をつなぎとめるものとして」半封建的であり、「必然的に分解して資本主義的土地所有に轉化するものとして前資本主義的である（一四二頁）」ところの「過渡的範疇」と規定される（この地代論的解明は「わが國小作料の地代論的研究」前掲書二四頁にある）。この理解は農民的土地所有と小經營形態が生産關係との關聯で範疇的に規定されず、獨自の發展（轉變）と範疇とを有することになる結果、分割地所有の歴史的意義――利潤の障害となる地代（封建地代）の消滅――が見失われることとなる。その故にこの「分割地所有」が日本に適用されて地租改正後の農民的土地所有と地主制が「特殊な歴史的諸條件によつて規制されて半封建的性格」をもつた分割地的土地所有とその潰滅の上に生じた寄生地主制として、高率現物小作料が分割地所有の、半封建的、前資本主義的二側面を有する過渡的地代として規定される。ここにこそ「獨占資本――農民という農地改革の栗原理論」が形成されるのである。

日本農業における基本的生産關係を窮極的には資本と農民に還元するこの理論體系は、いわゆる封建論爭が範疇論に終始したのに對して過渡的形態の實質を理論的具體的に確定しようとこころみたと言われるが、かえつて農業における基本的な生産關係に基づく階級對立を抽象化した（現存する大土地所有者と直接生産者たる小農民〔これがウクラードである限り封建的生産關係である〕との對立）ことは、日農統一派と主體制派との理論對立に明らかに示されるところではなかろうか。栗原氏の分割地所有の理解は氏の「資本主義の農業問題」の中核をなすものであるから、別稿でそれを中心にして取上げたいと企圖しているものであるが、氏の經濟學の方法論（生産力と生産關係の統一としての生産樣式のとらえ方）との關聯でここでは指摘にとどめる。

ともあれ、本書は同じ立場に立つものも批判するものも一度取組み、超える努力を十二分に支拂うべき問題の書物ということが出來る。

（昭和三十年三月三十日刊、有斐閣　B6　三〇八頁、三四〇圓）

（平野　絢子）

經濟學關係文獻目錄

（昭和三十年五月）

理論・學說史・經濟思想

＊經濟學教科書3　ソ同盟科學院經濟研究所著マルクス・レーニン普及協會譯（合同新書）　B40　二五〇頁　一二〇圓（合同出版社）

＊經濟學講義　下　高田保馬著　A5　二〇五頁　二〇五圓（有斐閣）

＊社會科學者シュムペーター　ハリス著　坂本二郎譯　B5　四一七頁　六〇〇圓（東洋經濟新報社）

＊利子率その他諸研究　ロビンソン著　大川一司・梅村又次譯　B6　二一一頁　二六〇圓（東洋經濟新報社）

＊帝國主義入門　ソヴェト大百科事典　本間七郎譯（國民文庫）A6　一〇二頁　五〇圓（國民文庫社）

＊雇傭・利子および貨幣の一般理論　ケインズ著　鹽野谷九十九譯　A5　五三六頁　五〇〇圓（東洋經濟新報社）

＊ケインズ論難　高田保馬著（研究叢書）A5　二一〇頁　二八〇圓（有斐閣）

＊經濟學の古典と近代　平瀨巳之吉著　A5　四〇六頁　五〇〇圓（時潮社）

＊均衡分析の基本問題　安井琢磨著　A5　二九二頁　六五〇圓（岩波書店）

＊數理經濟學原理　久武雅夫著　A5　二九五頁　四八〇圓（日本評論新社）

＊經濟學徒のための統計學　安田敬二著　B6　一二〇頁　一八〇圓（關書院）

＊資本主義とは何か　ロチェスター著　立井海洋譯（青木新書）B40　一七五頁　九〇圓（青木書店）

統　計

＊統計　有澤廣巳編（毎日ライブラリー）B6　三六二頁　三五〇圓（毎日新聞社）

財政・金融・保險・證券

＊新版金融論入門　小島昌太郎著（入門經濟學叢書）B6　三四七頁　三二〇圓（廣文社）

＊基本金融・財政　高橋長太郎・高橋壽著（商經基本全集）A5　二一六頁　三〇〇圓（春秋社）

＊金融入門　牧野純夫著　B40　二八九頁　一六〇圓（新評論社）

商工業・經營・會計

＊勞務管理　森五郎著（經營全書）B6小　二六〇頁　二五〇圓（ダイヤモンド社）

＊商學概論　平野常治著　B6　二七六頁　三〇〇圓（世界書院）

＊管理原價會計　番場嘉一郎・米澤甚二譯　A5　二〇五頁　四五〇圓（白桃書房）

＊標準原價計算　新訂增補　松本雅男著　A5　五二三頁　六〇〇圓（同文館）

＊會計監査　森吉之助著　A5　二八二頁　三五〇圓（同文館）

勞働・社會政策

＊明治社會運動思想　下　岸本英太郎編解說（青木文庫）A5　三〇五頁　一二〇圓（青木書店）

＊世界の勞働者とともに　風間龍著　B40　二〇七頁　一〇〇圓（岩波書店）

＊日本における雇傭と失業　失業對策審議會編　A5　三七五頁　五五〇頁（東洋經濟新報社）

＊ソ連の勞働運動および勞働政策　下　シュ